

沖縄愛 マルチに発信



沖縄の魅力を発信し続ける宮里英克さん（本人提供）

アクロス
沖縄

134

沖縄がある」との思いだ。

日本復帰の1972年に生まれ、周囲から「復帰っ子」と呼ばれる中、沖縄戦や米軍基地の存在などについて考える機会も多かつた。本土とは異なる歴史、自然、文化も誇りに思っていた。「沖縄

愛」をさらに強く持つようになつたのは、上京して三線を習い始めた時からだ。

新聞販売店で新聞選学生として働きながら大学についたが2年で中退した。沖縄で心配する母

千葉で三線教室主宰

宮里英克さん（48）＝那覇市出身

フリー紙発行・全国講演も

「安里屋コンタ、唐船ドーアを弾くと、『やさしい音だね』と喜んでくれた。自然と人が集まり、笑顔で踊りだした」。その経験が「自分の根っこにある沖縄」を確認させた。

帰国後、地図の制作を専門に手掛ける編集プロダクションに就職。働きながら、都内の三線教室で講師を務めていた。2011年の東日本大震災をきっかけに、「もつと自分らしく生きたい」と退職。独立して東京、千葉、神奈川で三線教室を開いた。

そこから活動の幅が広がる。神奈川県のコミュニティーラジオでパーソナリティを始め、沖縄の音楽と各分野で活躍する県出身者を紹介。テレビドラマの三線指導、イベントMCの仕事も入ってき

べの思い、故郷を離れた寂しい思いが積もる中、三線の音色に癒やされた。アルバイトをしながら都内の三線教室に通い、「自分にできることは何だろう」「もつと広い世界を見たい」と三線片手に中止やインドなどを巡る旅に出た。

一方、15年から全国各地の高校で修学旅行の事前学習会の講師を務める。沖縄戦、米軍基地の存在、歴史や自然を伝え、最後は三線のミニライブを行う。学校のライブでは、生徒にパーソンカーを持たせて、先生に踊らせる。

今年はコロナ禍で、修学旅行の学習会も沖縄関連のイベントも減り、三線教室も開けない状態だ。しかし、「沖縄の魅力がなくなるわけではない」と発信を止めない。新たに、三線の練習方法などを動画で伝えるコーチューブを始めた。

「発信すること」で人と人をつなぎ、発信するたびに新しい魅力に気づく。これからも自分らしく活動を続ける。故郷を離れてから今年で30年。沖縄愛はどんどん膨らんでいる。

（東京報道部・吉川毅）

みやざと・ひでかつ 1972年、那覇市生まれ。千葉県在住。那覇高校卒業、國學院大學文学部中退。三線教室主宰、フリーペーパー「ハイサイ！」「ウチナータイム！」の編集発行人、沖縄関連のイベントMC、ラジオパーソナリティ、雑誌の連載や講演活動など、活動の場を広げながら沖縄の魅力を発信している。オフィシャルサイトは、<https://miyaza.tohidekatsu.com/>